

報 告 書 抄 録

ふりがな	しせき のしまじょうあと							
書名	史跡 能島城跡							
副書名	平成20年度郭Ⅱ・Ⅲ・南部平坦地調査報告書							
巻次								
シリーズ名	今治市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第103集							
編著者名	小野 倫良							
編集機関	今治市教育委員会							
所在地	〒794-0028 今治市北宝来町 1-1-16							
発行年月日	2010年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
のしまじょうあと 能島城跡	えひめけんいまばりしみや 愛媛県今治市宮 窪町宮窪6571、 6572、6573、 6574、6575番地	202		34° 10' 58"	133° 04' 51"	200807 ～ 200903	456 m ²	史跡整備 に伴う試 掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
のしまじょうあと 能島城跡	城館跡	中世	掘立柱建物跡、 土杭、溝状遺構	土師質土器、国産陶磁 器、輸入陶磁器、石製 品、金属製品等				
要約	<p>史跡能島城跡保存修理事業に伴い主郭にあたる郭Ⅱ・Ⅲと海岸部の南部平坦地の試掘調査を実施した。郭Ⅱ・Ⅲでは合計13本のトレンチを設定し、357基の柱穴、11基の土杭、7条の溝状遺構を確認した。比較的広い平坦地では、郭Ⅰと同様に、多くの柱穴が確認され、比較的狭い平坦地では、通路として利用するために行われたと思われる岩盤の削平や、盛り土といった土木工事の跡が確認できた。</p> <p>南部平坦地前には3箇所のトレンチを設定し石垣前面の状況把握を行った。各トレンチとも柱根が検出され海岸利用の確証となった。しかし、岩盤は予想より深く、トレンチを2m×2m大としていたため掘削可能深度に限界があり、岩礁ピット等地山面の確認や石垣前面の根石部分の把握には至らなかった。</p>							